新居小学校だより

2020年11月号　Ｎｏ．２【地域版】

《めざす学校》
日本一 笑顔が あふれる学校

《めざす子ども》
苦手なことにも チャレンジする子ども

ドローンを使ってプログラミング体験教室

５日（木）福留開発株式会社様のご協力により、３～６年生がプログラミング体験教室を行いました。初めに、建設業・土木工事の仕事についてお話を聞きました。道路や橋、トンネルなど人が生活するうえで欠かせないものをつくることで、「人の命や財産を守る」「人の暮らしを豊かにする」「自然環境を守る」仕事をしているということでした。その後、ドローンやタブレット、アプリの使い方、プログラミングの基本を教えてもらい、いざドローンを動かしてみました。結構簡単に動かせることに子どもたちはビックリしていました。その後、スタートからゴールまでいくつかの地点を通過し、しかも地上 1m ぐらいに設定されたフープの中を通すというコースにチャレンジ。各班で協力して、地点の間の長さを測ったり、ドローンを曲げるために分度器で角度を測ったり…と算数で学んだ知識・技能を生かしてプログラミングしていました。さあ、ゴールまでうまくたどり着けるでしょうか？それがなかなかうまくいきません。ちょっとの長さのずれや角度のずれで、フープをくぐれなかったり、ゴールに着けなかったり、ゴールから大きく離れたり…。長さや角度を測り直してはプログラミングし、再チャレンジ。子どもたちは悪戦苦闘していました。それでも何度か修正しているうちに、ゴールに近づくことができていました。ゴールの位置にきちんと着陸できたのはわずか一組でしたが、子どもたちはプログラミングについて楽しく学ぶことができました。

ドローンをプログラミング
土佐市の新居小 自動飛行に歓声

【土佐】土佐市新居の新居小学校の3～6年生23人がこのほど、同校でドローン飛行に挑戦し、プログラミングの基礎や活用法を学んだ＝写真。

本年度から小学校で必修化されたプログラミング学習とキャリア教育の一環で5日に開催。土木工事の測量などにドローンを活用している福留開発（高知市）の社員が講師を務めた。

児童は土木工事の役割や仕事内容に関する説明を受けた後、ドローンを自動で飛ばすプログラミングに挑戦。指定のルートを障害物を避けながら飛ぶよう、高さや曲がる角度などを専用ソフトに入力した。

最初は数値を誤り、ドローンが輪をくぐれなかったり、壁に当たったりと苦戦。正確な数値を入れた再挑戦は大成功で、児童からは「おおー」と歓声が上がっていた。6年の中島伶さん（11）は「意外と簡単だった。自動で操縦できるのはいろんな場面で使えそう」と話していた。（山崎友裕）

プログラミング体験教室の記事が高知新聞に載りました。

平石川堤の花壇にパンジーを植えました

17日（火）に「新居を花いっぱいにする会」にご協力いただき、みのり保育園、１・２年生、つくし学級の子どもたちで平石川沿いの花壇にたくさんのパンジーを植えました。小学生が保育園児の手を引いて一緒に植える姿が見られるなど、よくお世話ができていました。登下校の時にまた見てみてください。
地域の皆さん、ありがとうございました。